

利用者にとって

# 使いやすいWEBの構築にあたって

WEBアクセシビリティ 規範(ガイドライン)の模索

Ver. 0.6

2007.1.5

Itconsult&designlabo corp.

# 利用者にとって使いやすいWEBの構築にあたって

## WEBアクセシビリティ 規範(ガイドライン)

今回の地域ポータルサイトのデザイン設計にあたり、以下の規範を調査し、

- マークの中より、関係者の共通認識を図ると共に、今回の基本的ルールを制定する。

### 【参照文献】

公共分野アクセシビリティの確保研究	総務省
高齢者・障害者等配慮設計指針	JISX8341-3
● GMO サイトチェック 108項目	GMOインターネット
● WEBアクセシビリティ指針 V2.01	富士通

## GMO サイトチェック 108 項目

インターネットマーケティングの成功ノウハウです。

一般的にいわれていることも含まれているかもしれませんが、全てGMO自らの事業のWebサイトで成果を実証してきました。また、必要に応じて[JIS規格 X8341-3](#)にも対応し、情報アクセシビリティの確保、向上に努めています。

### ① 利用者本位のサイトデザインであること(運営者側の都合で構成しない)

利用者のサイト来訪したニーズから、メニュー、コンテンツ内容などの構成が考えられるべきである。What's New ×、FAQ ×

### ② 重要な情報はスクロールしなくても見られる部分に配置。

スクロールで隠れる部分に掲載された情報からの誘導率は、1/2~1/3に減少する。

### ③ 3秒ルールを守る

3秒以内に、来訪者が求めている情報を見つけられなければ彼らは去ってしまう。画面構成、メニュー位置など要注意。

### ④ 広告キャッチ(検索エンジン登録含む)とリンクページ内のキャッチができる限り速動すること

導線をつなげる。

### ⑤ 8秒ルールを意識したサイトづくり

インターネット利用者はとても短気&浮気者。ページが表示されるまでに待てる時間はたったの8秒。

### ⑥ Z型視点を考慮したメニュー&コンテンツレイアウト

Webサイトは基本的には横書き。左から右へZ型に視点は移動する。申込ボタンは一番目立つ位置に設置。

### ⑦ 漢字の使用率は30%以内、1行の文字数は40文字以下、行間は120%前後の設定に

パソコン画面の文字は、紙媒体に比べ読みづらく疲れる。読みやすさを考えたサイトデザインを優先させる。

### ⑧ 文字の強調は赤太字などルール化して利用する

強調文字をルール化しなければ、通常のリンクと間違えて認識されてしまう。下線&青文字は使ってはならない。

### ⑨ 3クリック以内に申込ページに誘導させる(階層を浅く広く、内容は深く)

サイト上で複数の情報を明確かつ、すばやく来訪者に提供するし、目的ページまでの誘導は3クリック以内に。

その他99項目

## 富士通のウェブ・アクセシビリティ・ポリシー

富士通グループは No.1 インターネット企業として、次の 4つのポリシーにもとづき、ウェブ・アクセシビリティの向上を推進しています。

### 1. より多くのユーザーが自分 1人の力で、いつでも、どこでも、最新の情報を、より簡単に利用できるようにする。

ウェブコンテンツは、場所や機器など利用環境を問わず多様な身体特性でも利用できるよう、アクセシビリティに配慮することが重要と考えます。富士通は、多くの利用者の特性や環境について熟慮し、より快適な見やすさや使いやすさを実現していきます。

### 2. ウェブ・アクセシビリティを品質の1要素と考え、「セキュリティ」や「信頼性」などとともに、ユーザーの求める高いレベルの品質を提供していくこと。

アクセシビリティは、ウェブサイトを通じて伝えたい情報を正しく理解していただくために品質の観点からも非常に大切なことです。例えば、「色だけで情報を提示しない」ことは色覚障害や白内障などがある人に重要です。セキュリティなど、他の要素を損なうことなく、トータルな観点で高い品質を提供します。

### 3. 組織横断的な活動によって、高いレベルのウェブ・アクセシビリティを目指すこと。

ウェブ・アクセシビリティは、ウェブサイトに掲載するコンテンツ、使用するブラウザ、通信環境、支援技術など多くの分野に関わる課題です。富士通では、サイト管理者・プログラマー・デザイナーなど、ウェブにかかわるスタッフが、それぞれの力を発揮し、より高いレベルのウェブ・アクセシビリティを提供します。

### 4. ウェブ・アクセシビリティを、継続的な取り組みとして考えていくこと。

ウェブコンテンツは、公開した日から情報の追加・更新などが求められ、特定の人や組織に依存しない継続的な運用が大変重要です。またウェブに関する新しい技術も次々と提供されています。富士通はウェブ・アクセシビリティを、技術の進歩に連動し限りなく発展させていくべきものにとらえ、積極的に取り組んでいます。

【経緯】

2000. V1.0 公開  
2006. 5 V2.01 制定

## 指針の策定方針

### 1. 実効性を重視

国内外のウェブデザイナー、社外有識者、一般のウェブ利用者へのヒアリングを通し、実現性が高く、効果的な内容とすることを目指しました。

### 2. グローバルな適用可能性

まず、日本国内の富士通グループの公開ウェブサイトに応用いたします。そして順次、全世界の富士通グループに応用を推進いたします。ただし、携帯電話用ウェブサイトには適用されません。

### 3. 国内外の基準、ガイドラインなどとの整合性重視

「JIS X8341-3 高齢者・障害者等配慮設計指針 - 情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス - 第3部:ウェブコンテンツ」、WAI(Web Accessibility Initiative)の Web Content Accessibility Guidelines1.0、米国リハビリテーション法508条、など、国内外の基準、ガイドラインなどとの整合性を重視いたしました。

「JIS X8341-3 高齢者・障害者等配慮設計指針 - 情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス - 第3部:ウェブコンテンツ」と富士通ウェブ・アクセシビリティ指針 第2.01版の関係については、「日本工業規格 JIS X8341-3 高齢者・障害者等配慮設計指針との関係」をご覧ください。

### JISの優先度と指針の優先度

JIS X8341-3では、各項目をJIS Z8301:2000(規格票の様式)で規定された

- “指示または要求”としての「…しなければならない」
- “推奨”としての「…することが望ましい」

の2段階に分け、前者を守るべき「必須事項」とし、後者を「推奨事項」と位置づけています。これに対して、富士通ウェブ・アクセシビリティ指針 第2.01版では、優先度を3段階にし、「優先度1」がもっとも高い優先度であることを示します。

JIS X8341-3の「必須」は、富士通ウェブ・アクセシビリティ指針 第2.01版の「優先度1」に対応し、「推奨」は、「優先度2」もしくは「優先度3」に対応しています。

JISの優先度と指針の優先度の対応表

富士通	JIS X8341-3	意味
優先度 1	必須事項 …しなければならない (指示または要求)	shall
優先度 2	推奨事項	should
優先度 3	…することが望ましい (推奨)	

## プロセスに関する指針 (7項目)

プロセスに関する指針では、アクセシビリティに配慮したウェブサイトを構築するために、企画・設計・制作・運営の4つの工程において配慮していただきたい要件を記載しています。

番号	優先度	項目	対応するJIS
1	低優先度 1	企画・設計・制作・運営のすべてのプロセスで、アクセシビリティを検討するための工程を組み込む。	6.2(必須)
2	低優先度 1	ウェブサイトの関係者全員が、アクセシビリティに関する基本的な知識を共有できるようにする。	-
3	低優先度 1	利用者の意見、要望、質問を収集できるようにし、ウェブサイトの仕様に積極的に反映する。	6.4(必須) 6.5(必須)
4	低優先度 1	企画・設計・制作・運営のすべての工程で、アクセシビリティの評価、検証を行う。	6.3(必須)
5	低優先度 1	アクセシビリティを効率的かつ効果的に維持できるよう企画・設計する。	6.1(必須)
6	低優先度 1	できるだけ多くの機器やソフトで操作・利用できるように、利用環境を定める。	-
7	低優先度 1	特定の技術やプラグイン (JavaScript・Javaアプレット・Flash・PDFなど)、動画、オーディオの利用が、伝えたいことを表現するうえで、必要かどうか、検討する。	5.1b(必須)

## 仕様に関する指針【全体要件】（16項目）

仕様に関する指針では、ウェブコンテンツのデザイン・文章・HTMLのタグ付けなど、仕様に関して配慮していただきたい要件を記載しています。

番号	優先度	対象要件	項目	対応するJIS
8	優先度 1	全体要件	すべてのページに、ページの識別ができ、かつ内容を的確に示すタイトルをつける。	5.2e(必須)
9	優先度 1	全体要件	ページ内で記述する基本となる言葉を明示する。	5.9a(必須)
10	優先度 1	全体要件	文字色と背景色のコントラスト(明度差など)を充分に取る。	5.6c(推奨)
11	優先度 1	全体要件	ウェブコンテンツの内容を理解・操作するのに必要な情報は、色のみを使用せずに、文字やパターン(模様)などを併用する。	5.5a(必須) 関連項目: 5.3b(必須)
12	優先度 1	全体要件	ウェブコンテンツの内容を理解・操作するのに必要な情報は、形や位置のみを使用せずに、テキストで他の情報を付記する。	5.5b(必須)
13	優先度 1	全体要件	画面全体が短時間で連続的に変化するような表現を使用しない。画面の一部でも、明滅やスクロールの速いものや、色のコントラストが極端に変わるものなどは、使用しないことが望ましい。	5.8a(推奨) 5.8b(必須) 関連項目: 5.1a(必須)
14	優先度 1	全体要件	情報は、ブラウザ内のコンテンツ表示領域を利用し、適切な場所に表示する。	関連項目: 5.1b(推奨)
15	優先度 2	全体要件	サイト内検索機能を設ける。	-
16	優先度 2	全体要件	サイトマップやページ共通のナビゲーションバーを設けるなどして、サイト構成を把握しやすくする。	-
17	優先度 2	全体要件	現在表示されているページが、サイト全体、もしくは、コンテンツ内のどこに位置しているか、把握できるようにする。	5.2g(推奨)
18	優先度 2	全体要件	文章だけでわかりにくい内容は、適切な図・動画・音声などを組み合わせて表現する。	5.9f(推奨)
19	優先度 2	全体要件	ページの表示に要する時間を短くする。	-
20	優先度 2	全体要件	本文へのページ内リンクを設けるなどして、ページ共通のナビゲーションバーやメニューなどを簡易飛ばせるようにする。	5.3h(推奨)
21	優先度 2	全体要件	横方向のスクロールが発生しないようにする。	-
22	優先度 2	全体要件	1ページの長さを、適切な長さにする。長くなるときは、適切なナビゲーション(ページ内リンクや“ページの先頭へ戻る”リンク)を設ける。	-
23	優先度 3	全体要件	ウェブサイトが対象とする利用者に応じて、他の言語のページを用意する。	-

## 仕様に関する指針【特定の技術やプラグイン】 (2項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
24	優先度 1	特定の技術やプラグイン	特定の技術やプラグイン (JavaScript・Javaアプレット・Flash・PDFなど)が必要なコンテンツを提供する場合は、代替手段・代替情報も併せて提供する。	5.4e(必須) 関連項目: 5.1a(必須) 5.1b(推奨)
25	優先度 2	特定の技術やプラグイン	特定の技術やプラグイン (JavaScript・Javaアプレット・Flash・PDFなど)はアクセシブルなものを用いる。また、コンテンツは、それらの技術やプラグインが提供するアクセシブルな機能を、最大限活用して作成する。	5.1b(推奨) 関連項目: 5.4e(必須)

## 仕様に関する指針【スタイルシート】(2項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
26	優先度 1	スタイルシート	構造のための要素や属性と、表現のための要素や属性は、正確に使用し、論理構造に沿って指定する。	5.2a(必須)関連項目: 5.1a(必須) 5.2b(推奨)
27	優先度 2	スタイルシート	スタイルシートを使用する場合、スタイルシートに未対応のブラウザ(音声ブラウザなど)を用いて、正しい順序で参照できるようにする。	5.2b(推奨)

## 仕様に関する指針【テーブル】(2項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
28	優先度 1	テーブル	表(テーブル)は、行と列の関係や表示順序(セル単位、左上から右下)を考慮するなどし、内容を把握しやすくする。	5.2c(必須)
29	優先度 2	テーブル	表(テーブル)の要素や属性は、レイアウト目的での使用を最小限とする。	5.2d(推奨)

## 仕様に関する指針【フレーム】(3項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
30	優先度 1	フレーム	フレームの使用は、最小限にする。	5.2f(推奨)
31	優先度 1	フレーム	すべてのフレームに、フレームの識別ができ、かつ内容を的確に示すタイトルをつける。	5.2f(推奨) 関連項目: 5.2e(必須)
32	優先度 2	フレーム	フレームのスクロールバーを非表示にしない。	関連項目: 5.2f(推奨)

## 仕様に関する指針【操作】(13項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
33	優先度 1	操作	特定の入力装置に依存せず、少なくともキーボードだけですべての操作ができるようにする。	5.3a(必須)
34	優先度 1	操作	同一サイト内へのリンクは、同じウィンドウに表示し、新たなウィンドウを開くことは、必要最小限にする。	5.3e(必須)
35	優先度 1	操作	利用者の意思に反して、表示中のページを自動的に更新することや、自動的に他のページを表示(他のページへ移動)することはしない。やむをえず表示する場合、あらかじめそのことを告知しておく。	5.3e(必須)
36	優先度 2	操作	サイト内での基本操作部分(「トップページ」、「サイトマップ」などへのリンクや、ページ内リンクなど)は、サイト内での表現(文言・形状・色彩・配置など)や機能に、一貫性をもたせる。	5.3r(推奨)
37	優先度 2	操作	メニュー項目数が多い場合は、わかりやすい並び順にするか、階層化、グルーピングなどにより、一度に把握しななければならない項目数を減らす。	-
38	優先度 2	操作	リンクがあることが見ただけでわかるようにする。	5.3g(推奨)
39	優先度 2	操作	リンクは、リンク先の内容がわかるように表現する。	5.3g(推奨)
40	優先度 2	操作	ダウンロードするデータは、ファイル形式・ファイルサイズを明記する。	-
41	優先度 2	操作	リンク先が画像のみの場合、リンク元でリンク先が画像であることを明記する。	-
42	優先度 2	操作	リンクのある文字や画像などは、クリックしやすいように十分な面積にし、誤操作しないように十分な間隔をあげる。	5.3g(推奨)
43	優先度 2	操作	リンク切れを示すメッセージは、わかりやすくする。	-
44	優先度 2	操作	ブラウザの基本的な機能やUIコントロール(ツールバー、スクロールバーなど)は変更しない。	-
45	優先度 3	操作	コンテンツ内に表示するボタンなどは、その役割がすぐにわかるようにする。	5.3g(推奨)



## 仕様に関する指針【フォーム】(8項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
46	優先度 1	フォーム	フォームに入力する内容は、必要最小限にする。	-
47	優先度 1	フォーム	フォームは、ラベルとコントロールの関係を明確にする。また、入力項目をグルーピングし、コントロールを見つけやすくする。	5.3b(必須)
48	優先度 1	フォーム	フォームの各入力項目には、入力する内容や条件などを明確に示す。	5.3b(必須) 関連項目: 5.5a(必須)
49	優先度 1	フォーム	入力ミスやエラーが発生することを考慮し、適宜、フォームに反映できるようにする。その際、入力済みのデータを表示しておく。	5.3i(必須)
50	優先度 1	フォーム	入力した内容は、送信前に利用者が確認・修正できるようにする。	5.3i(必須)
51	優先度 2	フォーム	ボタンは、入力操作の流れに沿った場所に配置する。	-
52	優先度 3	フォーム	フォームには、時間制限を設けない。やむをえず設ける場合は、その旨を告知する。	5.3c(推奨) 5.3d(推奨)
53	優先度 3	フォーム	選択肢が複数個ある場合は、選択肢の数をあらかじめ提示し、それらが何を表しているか、わかりやすくする。	-

## 仕様に関する指針【画像】(5項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
54	優先度 1	画像	すべての画像には、画像の内容を的確に示す alt 属性をつける (画像の代替情報)。	5.4a(必須) 5.4b(必須)
55	優先度 1	画像	イメージマップは、サーバサイドではなく、クライアントサイドとし、リンク先の内容を的確に示す alt 属性をつける。	5.4b(必須)
56	優先度 2	画像	文字を画像で使用する時は、文字フォント・サイズ・コントラストなどを考慮し、読みやすくする。	5.5c(推奨)
57	優先度 2	画像	画像の背景 (文字や絵の周囲) に、透過色を設定しない。	5.5c(推奨)
58	優先度 3	画像	画像のみで重要な情報を説明している場合は、補足情報として概説をテキストで付記する (画像の補足情報)。	-

## 仕様に関する指針【テキスト】(7項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
59	優先度 1	テキスト	意味が大きく変わる文字装飾(取り消し線など)を使用する場合、その意味をテキストでも併記する。	5.5b(必須) 関連項目: 5.1a(必須) 5.5a(必須)
60	優先度 1	テキスト	文字サイズ・フォント・および行間は、利用者が変更できるようにする。	5.6a(必須) 5.6b(推奨)
61	優先度 1	テキスト	記号や省略表記を使用する場合は、音声での読み上げに配慮する。	5.5b(必須) 5.9c(推奨)
62	優先度 1	テキスト	単語内にスペースや改行を挿入しない。また、半角文字と全角文字を混在させる場合は、音声での読み上げに配慮する。	5.5b(必須) 5.9c(必須)
63	優先度 1	テキスト	機種依存文字(丸付き数字やローマ数字など)は使用しない。	5.1a(必須)
64	優先度 2	テキスト	想定する利用者にとって一般的ではない言葉(外国語・専門用語・略語・社内用語など)を多用しない。	5.9b(推奨) 5.9c(推奨)
65	優先度 3	テキスト	想定する利用者にとって、読みの難しい言葉や固有名詞などは多用しない。	5.9d(推奨)

## 仕様に関する指針【音声・映像】(5項目)

番号	優先度	対象要素	項目	対応するJIS
66	優先度 1	音声・映像	重要な情報を提示する場合は、警告音などの聴覚的な方法と、メッセージ表示などの視覚的な方法を併用する。	5.4c(必須)
67	優先度 1	音声・映像	音声を使用する場合は、テキストなどによる同等の情報を提供する。	5.4c(必須)
68	優先度 3	音声・映像	動画を使用する場合は、音声またはテキストなどによる同等の情報を提供する。	5.4d(推奨)
69	優先度 3	音声・映像	自動的に音(BGMなど)を再生しない。	5.7a(推奨) 関連項目: 5.1a(必須)
70	優先度 3	音声・映像	動画や音声で情報を提供する場合、利用者側で音量調節や再生/停止ができるコントロール機能を設ける。	5.7b(推奨)

END